

KATANを買った。  
信頼できる、長く付き合える  
と思ったから。

竹田(以下TK)　　そこまで言い切りませ  
か！うーん、確かに音は非の打ち所がない  
と思う。LINNはもともと良さがパツと  
聴きでは分かりにくいところがあると思う  
んです。聴いた瞬間「いい！」と思うこと  
が少ない。私がオーディオの世界にはまっ  
たきっかけは、JBLのハークネスです。  
ハークネスでシャンソンを聴いた時の何と  
もいえない味わい、匂いを忘れることがで  
きません。

始めのうち、そういう衝撃をLINNに感  
じることはほとんどなかったです。  
LINNのエリートリテラーにいながら  
「これはいいけど、これはわからない」と  
いう状態でした。いつもほんとにいいなと  
思うところまで少し時間がかかる。いいな  
と思ったところからは強いですけれどね。  
KOMRI(注1)を聴いた時は、ハーク  
ネスとはまた別の衝撃があった。

簡単には言葉に出来ません。ただ、その時  
LINNのことが少し分かったような気が  
して、KATAN(注2)を買ったんです。  
信頼できる、長く付き合えると思ったから  
藤井(以下F)　　そうか、僕は最初からL  
LINNはいいと思っていたからな。物作り  
の姿勢やフィロソフィーが画期的で柔軟な  
ことが、すごく新鮮で賢く思えたんだよ。  
無駄がないって言うかな。だからLINN  
の製品を疑うことは全くと言っていいほど  
なかったな。

TK　私は大いに疑っていたんですね。  
ただ、最近の製品に関しては違えますよ。  
特にMAJIKシリーズ(注3)以降は、  
以前より明らかにパッシブネットで、聴い  
た瞬間に胸を打つものがある。  
ただ、ファーストインプレッションで惹き  
付ける力はやっぱりもつと必要だと思う。  
それはやっぱり見た目じゃないかしら。デ  
ザインにも少し工夫があったら・・・と  
思わずにいられない。折角名機の素質を持  
つていても、出会ってもらえない確率が低く  
なってしまうですよ！

LINNはグルグル同じところをまわって  
いるように見えて、明らかに上昇し続けて  
いるメーカーだと思っんです。一生懸命一  
番初めに作った製品「LP12」(注4)  
に近づこうとしている。それは、LP12  
だって最初のままではなくて、少しずつ少  
しずつ進化していつているようなかたちを  
とりながらです。そうやって切磋琢磨しな  
がら、どんな性能水準を上げてきている。  
そんな中でもCD12(注5)はやっぱり  
本当に凄い存在なんだと思います。

CD12が今も愛されてやまないのは音だ  
けでなく、やはりものとしての質感やデザ  
イン、全てにおいてずば抜けた存在。だか  
ら誰しも名機だと認めているのではないで  
しょうか？  
LINNファンでなくても「あれだけは手  
に入れたいと思った」と皆さん仰いますもの。

CD12オーナーが  
AKURATE CDの  
楽しみ方を見だしている

F　じゃあ、竹田さんはAKURATE  
CDは売れないと思う？  
TK　そんなこと思いませんよ！  
藤井さんが言うように明らかにCD12に  
もLP12にも近づいていると思うし、現  
にCD12オーナーがAKURATE CD  
の楽しみ方を見出ししているもの。  
AKURATE CDが再現する情報量の



# サウンドクリエイト流 LINN AKURATE CD 解体新書 vol.2



AKURATE (アキュレート) CDがもたらす驚きは、  
どうやら万人に共通の事件のようです。  
サウンドクリエイトでは、スタッフの間でも白熱トークが絶えません。  
先月号では、スタッフが「AKURATE CDは名機になる！」  
と豪語してしまいました・・・



- 注1：LINNのフラッグシップスピーカー。内蔵パワーアンプによるアクティブウーファーとネットワークを通して駆動される4Kアレイの、ハイブリッド構成。近接立体配置された4Kアレイと20Hzまで再生可能な深々とした低域が、楽音の以外の音、つまりはその場の空気まで再現し、私たちは海外だろうが過去だろうが、演奏の場へ自由に音楽を聴きに行くことができる。でも、鳴らすには技術がいる！と思う。
- 注2：LINNをこよなく愛する人から、KATANIはKOMRIに近いところがあると聞いた。また、別の人は、昔売れに売れた名機のロジャースLS3/5Aの現代版、とも。この小さなブックシェルフ型のスピーカーは、愛情に素直に応えてくれる。個人的にはスタンドが扱いにくいと思っている。
- 注3：2006年春、CDプレーヤー、プリアンプ、パワーアンプとシリーズでリリース。このシステムを聴いて、LINNが変わったと感じたのは私だけではないだろう。「MAJIK」は、スコットランドの方言で「特別なもの」という意味があるとか。ちなみに、以前同じ名でプリアンプが存在したが、このアンプも長く愛された。特別な思いが込められたミドルクラスの製品というのは、やはり多くの人に届て欲しいはず。
- 注4：LINNの始まりであり、進化し続ける指標。LINNというメーカーを稀有な存在たらしめるその所以。
- 注5：LINNのターニングポイントをつかった記念碑的な存在。名機として今も愛され、探している人が後を絶たないCDプレーヤー。

SOUND CREATE www.soundcreate.co.jp

〒101-0021  
東京都千代田区外神田3-10-3 プライム秋葉原ビル  
営業時間/PM 12:00 ~ PM 8:00 (土日・祝日/PM 12:00 ~ PM 7:00)

フリーダイヤル/ 0120-62-8166  
定休日/火曜日(祝日を除く)

お取り扱いブランド

- <ビュアオーディオ> LINN/PIEGA/TRIGON/OCTAVE/ANTHONY GALLO/ATC/Mclntosh/YG ACOUSTICS /ORTOFON/DENON /BOULDER/AYRE/GERMAN PHYSIKS/AURA
- <ホームシアター> LINN/ANTHONY GALLO/AMX/FUJITSU GENERAL/STEWART/KIKUCHI/SHARP/LUTRON/VICTOR/MARANTZ
- <アクセサリ> Sound Mechanics/FAST AUDIO/FREA/QUADRASPIRE
- <家具・インテリア> QUADRASPIRE/TABULARASA/FLOS



妻さと言ったら、未だかつて聴いたこと  
ない音が聴こえるし、そういう意味では  
S A C Dは分析的かもしれないけれど、  
S A C DとC Dでは全く別のアプローチで  
音楽を楽しめるというのが面白いところだ  
と思うんです。それがこの一台で聴けるん  
だから文句なしです。C Dレイヤーの対決  
だったらC D 1 2の音楽性にはさすがに勝  
てなくても、S A C Dでは、C D 1 2には  
ない良さが引き出せる。だからC D 1 2と  
の対決も意味があるんですよ。  
実際、お客様の自宅での対決は、かなりお  
もしろいことになりましたもの。  
L P 1 2 S Eが出来てL I N Nは新たな  
指標を得て、次の段階に進んだんじゃない  
かと思っならないんです。その後の製品  
がA K U R A T Eシリーズだったので、  
余計にそう思いたくなる。だから、それを  
大いに感認めた上で、デザイン！と思うん  
です。  
私は欲張りなのかもしれないけれど。  
F　うーん、3年前お茶くみで入ったアル  
バイトの女の子とこんな話をするように  
なるとは、思いもよらなかったねえ。  
この仕事を始めてからずっとL I N Nは  
自信をもって勧められるブランドと何も  
疑わずにやってきたけど、なるほどねえ。  
今の話を聞いたからL I N Nを見直すとか  
そういう話ではなくて、僕にもいい刺激に  
なります。こういうことを出来る限りフイ  
ードバックしていくのも僕らの役目だし、  
今後のL I N Nに僕はやっぱり期待してし  
まう。だって、こんなに竹田さんや多くの  
人を惹き付けるっていうのはやっぱり力を  
持っているんだと思うんだよ。  
A K U R A T E C D、早くたくさんの人に  
聴いてほしいね。